開南大学夏季中国語・台湾文化研修で学んだこと

1311047　日本語日本文学科　３年
松下　優子

今回、開南大学の中国語・台湾文化研修で学んだことは、中国語はもちろんのこと、自分が専攻している日本語教育の観点からもさまざまなことを学び、吸収することができるものとなった。実際に自分が言語教育を受けることは、今までは教える立場だったため、とても新鮮であり、音楽を通して言語のリズムをつかませることや、実際に身近な場面を作る工夫などして、言語を使う練習をするなど、授業作りを学ぶうえでとても役立つ体験となった。授業内容としては、英語で中国語の授業が行われ、自分自身の英語力の低さを痛感する場面もあったが、先生方とチューターの学生がサポートしてくれたこと、生活環境に中国語があふれていたことで、研修の後半には、自分でお店に行って買い物をしたり、店員と話をして、値段をまけてもらうこともできるようになった。開南大学の学生とも交流する機会が多くあり、さまざまな場所に連れていったもらうことができた。学校がスケジュールに組み込んでくれた文化体験でもさまざまなことを見聞きすることができたが、このように台湾学生と出かけることで、台湾で今流行しているものや、生活に密着した行事など、ありのままの現在の台湾を見ることができた。学校がスケジュールで組んでくれた文化体験で最も印象に残っているには、九族文化村である。そこでは台湾の原住民である九つの部族の文化の様子を見たり、儀式を再現したステージを見ることができた。また、そのうちの民族のひとつである「首狩り族」と日本軍の武者事件の話などを聞く機会もあり、古くから台湾と日本にはつながりがあることや、植民地化した日本に対して親日であることの理由など、日本では学ぶことがないだろう話も聞くことができた。

このようにさまざまな台湾文化を見聞きし、現地で中国語を学べたこの研修をきっかけとして、さらに中国語の学習を進めたり、今自分が専攻している日本語教育に生かしていきたい。